

『秋刀魚の味』（さんまのあじ）は、1962年に松竹が製作・配給した日本映画。小津安二郎監督の遺作でもある。昭和37年度芸術祭参加作品。

これまでに小津安二郎監督が一貫して描いてきた、妻に先立たれた初老の父親と婚期を迎えた娘との関わりを、娘を嫁がせた父親の「古い」と「孤独」というテーマと共に描かれている。また、笠智衆演じる父親と中村伸郎、北竜二演じる友人たちとの応酬が喜劇味を加えている。

主演の笠は孤独な父親を見事に演じたほか、娘役の岩下志麻も快活な演技を披露し、これまでの小津作品とは違った味わいを醸し出している。『彼岸花』『秋日和』に続いて高橋とよが「若松の女将」役で出演している。

この作品を発表した翌年の1963年、小津監督は60歳の誕生日に亡くなったため、この作品が彼の遺作となった。

1962年度のキネマ旬報ベストテンに第8位にランクインされたほか、毎日映画コンクールで東野英治郎が男優助演賞、岸田今日子が女優助演賞、厚田雄春が撮影賞をそれぞれ受賞した。1999年にキネマ旬報社が発表した「映画人が選ぶオールタイムベスト100・日本映画編」では第82位にランクインされた（同じ順位に『砂の女』、『椿三十郎』、『影武者』、『カルメン故郷に帰る』など）。

2013年、小津の生誕110年・没後50年を記念して、松竹と東京国立近代美術館フィルムセンターが共同でデジタル修復を行い、カンヌ国際映画祭クラシック部門で上映された。画像の修復にはかつて小津作品で撮影助手を行ったことがある川又昂が担当した。

キャスト[編集]

平山周平演・笠智衆サラリーマン。妻を亡くし、長女と次男の3人で暮らす。

平山路子演・岩下志麻周平の長女。24歳。父と弟の身の回りの世話をする。

平山幸一演・佐田啓二周平の長男。路子の兄。妻と団地暮らし。

平山秋子演・岡田茉莉子幸一の妻。

三浦豊演・吉田輝雄幸一の同僚。

田口房子演・牧紀子周平の会社のOL。

平山和夫演・三上真一郎周平の次男。学生。幸一と路子の弟。

河合秀三演・中村伸郎（文学座）周平の旧友。路子の会社の上司。

佐久間清太郎演・東野英治郎（俳優座）周平のかつての恩師。今はラーメン屋を営む。

河合のぶ子演・三宅邦子河合の妻。

バーのマダム演・岸田今日子（文学座）周平の亡き妻の若い頃に似ている。

堀江タマ子演・環三千世堀江の後妻。

堀江晋演・北竜二周平の旧友。若い妻を娶っている。

「若松」の女将演・高橋とよ河合にからかわれてばかりいる。

佐々木洋子演・浅茅しのぶ周平の秘書。

渡辺演・織田政雄周平の同窓生。

バーの客演・須賀不二男、

稲川善一アパートの女演・志賀真津子

坂本芳太郎演・加東大介（東宝）周平の軍隊時代の部下。佐久間の店で周平とバツタリ再会する。

佐久間伴子演・杉村春子（文学座）佐久間の娘。父親の世話をしているうちに婚期を逃す。